

ファンド情報提供資料
(データ基準日:2024年3月29日)

Review Report

MUFG ウェルス・インサイト・ファンド

(保守型) (標準型) (積極型)

追加型投信 / 内外 / 資産複合

(マネープール)

追加型投信 / 国内 / 債券

2024 May

「MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(保守型)(標準型)(積極型)」は、NISAの成長投資枠の対象です。
※販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。

写真:ハワイ州ホノルル/アメリカ合衆国

資産運用の羅針盤として、MUFGのインサイト(洞察)を

MUFG ウェルス・インサイト・ファンド (保守型) (標準型) (積極型) (マネープール)

「コア・サテライト」と「長期投資」

効率的な資産運用に不可欠な2つのコンセプト

「守り」と「攻め」を組み合わせた戦略

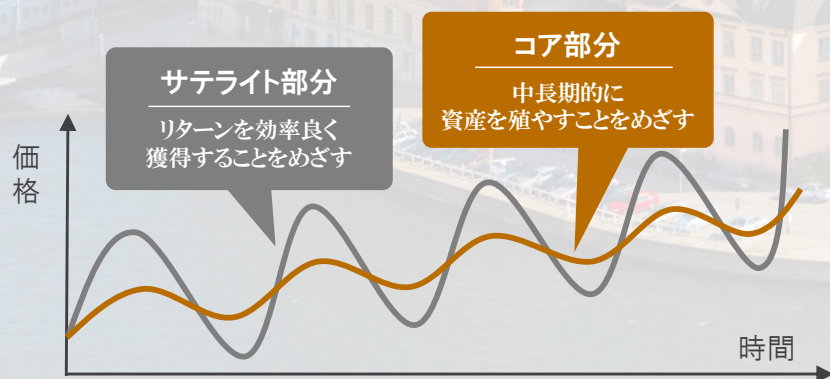
コア・サテライト戦略とは、安定的に運用する「コア部分」と、積極的に運用する「サテライト部分」を分けて考える運用戦略です。

コア部分とサテライト部分を組み合わせることで、お客様のニーズに合ったリスク・リターンでの運用が期待されます。



長期投資を実践する重要性

コア部分は相対的にリスクを抑えながら、中長期的に資産を殖やすことをめざします。サテライト部分では、リターンを効率良く獲得することを狙い、運用資産全体のリターンを向上させることをめざします。



・上記はイメージ図であり、必ずしもこのとおりになることを示唆・保証するものではありません。

長期投資を見据える

MUFG の知見・経験を活かした分散投資

当ファンドの3つのポイント ～(保守型)(標準型)(積極型)～

1 世界各国の幅広い資産へ分散投資

当ファンドは日本を含む世界各国の株式、債券、不動産投資信託(リート)、商品(コモディティ)およびオルタナティブ資産を実質的な主要投資対象としています。そのため、世界各国の幅広い資産へ分散して投資することができます。

2 選べる3つの目標リスク水準

お客様のリスク許容度に応じて、目標リスク水準が異なる3つのファンド(保守型、標準型、積極型)から選択できます。

3 独自の市場分析を活用

三菱UFJモルガン・スタンレー証券 投資顧問部が、グローバル投資戦略レポート(以下、GMAPレポート)を参照したうえで分析を行い、投資助言を実施します。投資顧問部からの投資助言に基づき、委託会社が運用します。

・詳しくは、次ページの「当ファンドの運用プロセス」をご覧ください。

・上記は(保守型)(標準型)(積極型)のポイントを記載していますが、当ファンドには(マネープール)もあります。
・市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

資産運用の羅針盤として、MUFGのインサイト(洞察)を

MUFG ウェルス・インサイト・ファンド (保守型) (標準型) (積極型) (マネープール)

当ファンドの運用プロセス 独自の市場分析を活用

三菱UFJモルガン・スタンレー証券 投資顧問部は、同社のウェルスマネジメントリサーチ部が作成したレポートを参照したうえで分析を行い、グローバル市場についての投資顧問部の長期市場見通しに基づく資産配分比率の決定、短期市場見通しに基づくその調整等について投資助言を行います。

投資顧問会社：三菱UFJモルガン・スタンレー証券 投資顧問部



- ◆ 金融市場の動向把握、ポートフォリオ構築に際しての判断材料・データの収集



- ◆ 以下についての投資助言
 - ・指定投資信託証券の選定・見直し



- ・GMAPレポートにおける各資産クラスのリスク・リターン・相関を参照したうえで、同部の長期市場見通しに基づく資産配分比率



- ・資産配分比率の定期見直し(同部の長期市場見通しに基づき原則年1回)、同部の短期市場見通しに基づく調整、および市場動向等に応じた臨時の変更

参照

投資助言

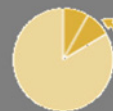


三菱UFJモルガン・スタンレー証券
ウェルスマネジメントリサーチ部
〈GMAPレポート〉

〈GMAPレポートとは〉

三菱UFJモルガン・スタンレー証券 ウェルスマネジメントリサーチ部が策定するMUFGウェルスマネジメントのハウスビュー(グローバル市場の長期および短期見通し)を提示するレポートです。

- ・ファンドにおいて、ウェルスマネジメントリサーチ部は、有価証券の価値等または有価証券の価値等の分析に基づく投資判断に関し助言を行うものではありません。
- ・GMAPレポートは、投資顧問部が投資助言を行う際に参照するものであり、各バランスファンドの資産配分比率や運用方針および成果を示唆・保証するものではありません。



委託会社：三菱UFJアセットマネジメント

- ◆ 投資顧問会社からの投資助言に基づくポートフォリオ構築・リバランスの実施
- ◆ 運用方針、運用ガイドライン等の遵守に関するモニタリングの実施
- ◆ 投資助言に基づいて、指定投資信託証券の選定・見直しの実施

・上記は2023年11月30日現在の運用プロセスのイメージであり、実際にファンドで投資する銘柄の将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。・上記の運用プロセスは変更される場合があります。・投資助言者、投資助言の内容、投資助言の有無等については、変更する場合があります。また、市場環境等によっては上記のような運用ができない場合があります。

【本資料に関してご留意いただきたい事項】の内容を必ずご覧ください。

本資料の内容

I マーケットの動向

主要マーケット指数の期間別パフォーマンス

II MUF G ウェルス・インサイト・ファンド(保守型)(標準型)(積極型)運用状況

1.パフォーマンス推移・市況動向等

2.騰落率要因

3.リスク/リターン分布

マーケットの動向

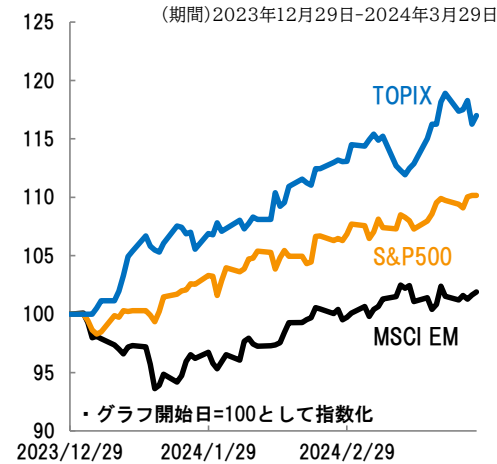
Key Market Indicators

主要マーケット指数の期間別パフォーマンス

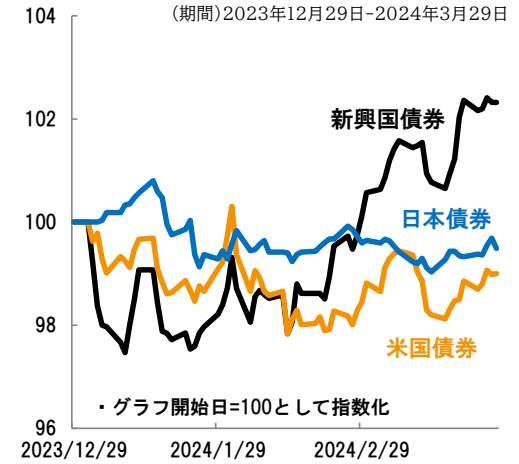
騰落率 (2024年3月29日時点)

		2024/3/29	騰落率			
			1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
株式	日本 日経平均	40,369.44	+3.1%	+20.6%	+26.7%	+44.0%
	TOPIX	2,768.62	+3.5%	+17.0%	+19.2%	+38.2%
	米国 S&P500	5,254.35	+3.1%	+10.2%	+22.5%	+27.9%
	NASDAQ総合	16,379.46	+1.8%	+9.1%	+23.9%	+34.0%
	欧州 ストックス・ヨーロッパ600	512.67	+3.7%	+7.0%	+13.9%	+12.0%
	先進国 MSCI World	3,437.76	+3.0%	+8.5%	+20.5%	+23.2%
	新興国 MSCI EM	1,043.20	+2.2%	+1.9%	+9.5%	+5.3%
	世界 MSCI ACWI	783.58	+2.9%	+7.8%	+19.3%	+21.2%
	債券	日本 NOMURA-BPI総合	366.50	▲0.1%	▲0.5%	+0.4%
米国 FTSE米国国債インデックス	840.26	+0.6%	▲1.0%	+4.6%	+0.0%	
新興国 JPモルガンEMBI+	774.56	+2.2%	+2.3%	+13.1%	+10.8%	
リート	日本 東証REIT	1,794.97	+5.7%	▲0.7%	▲3.5%	+0.5%
先進国 S&P先進国REIT	257.24	+2.1%	▲1.6%	+13.9%	+5.4%	
為替 (対円)	米ドル	151.35	+0.9%	+7.3%	+1.3%	+13.9%
ユーロ	163.30	+0.8%	+4.9%	+3.4%	+13.4%	
英ポンド	191.03	+0.9%	+6.4%	+4.8%	+16.7%	

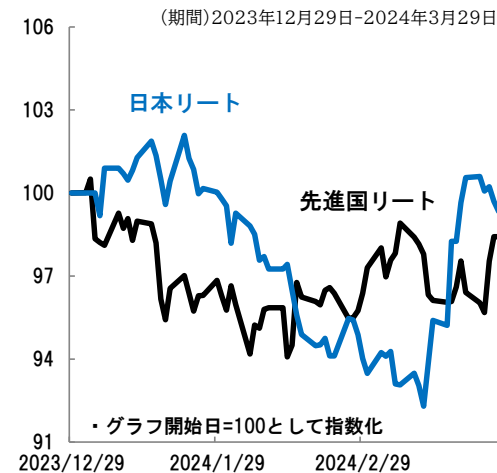
株式市場の動き



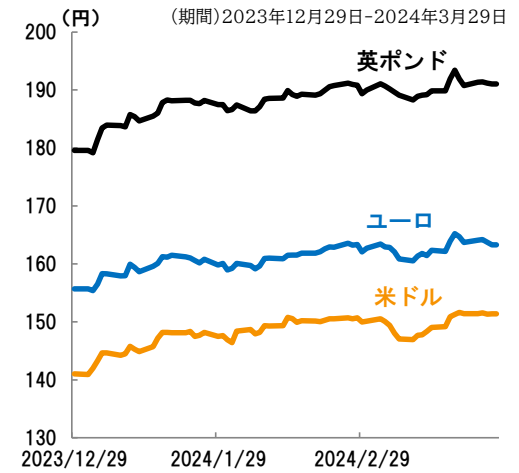
債券市場の動き




リート市場の動き



為替相場 (対円レート)



(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成・参照指数は以下の通り、日本株式(日経平均株価・TOPIX)、米国株式(S&P500株価指数・NASDAQ総合指数)、欧州株式(STOXX欧州600指数(ユーロベース))、先進国株式(MSCIワールドインデックス(米ドルベース))、新興国株式(MSCIエマージング・マーケットインデックス(米ドルベース))、世界株式(MSCIオールカントリー・ワールドインデックス(米ドルベース))、日本債券(NOMURA-BPI総合)、米国債券(FTSE米国国債インデックス(米ドルベース))、新興国債券(JPモルガンEMBI+(米ドルベース))、日本リート(東証REIT指数)、先進国リート(S&P先進国REIT指数(除く日本、米ドルベース))。株式・リートにおいていずれも記当なしの指数を使用。上記は、将来の運用成果等を保証するものではありません。・上記、休日の場合、直近値を使用。

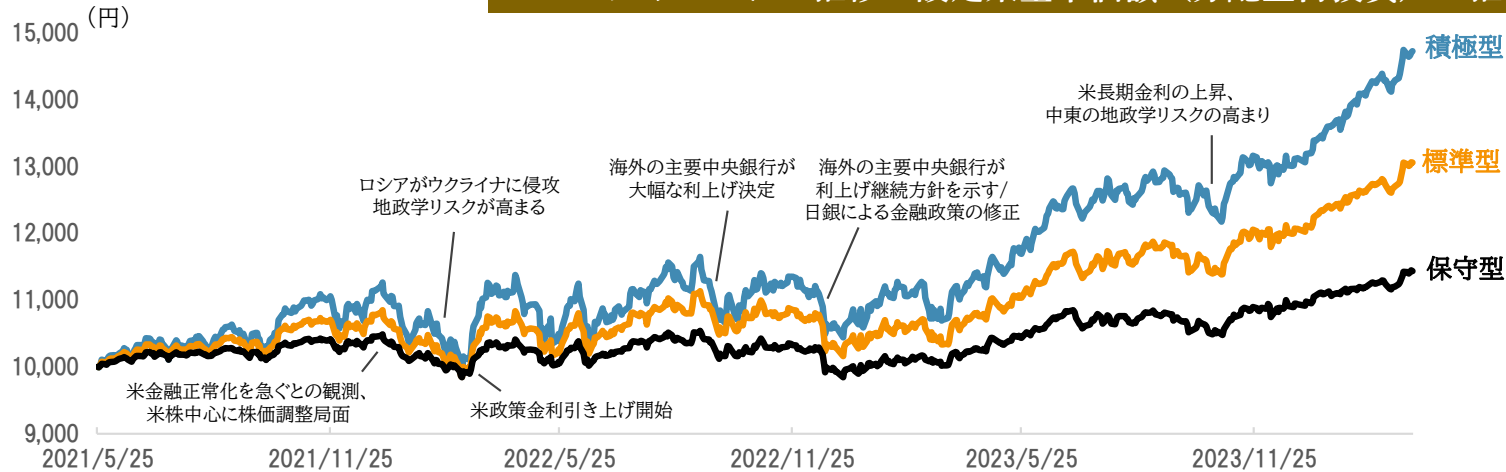
A tropical beach scene at sunset. The sky is a mix of orange, pink, and purple. Several palm trees are silhouetted against the sky. In the foreground, a couple is walking along the beach, and a person is riding a bicycle on the right. The ocean is visible in the background.

MUFG ウェルス・インサイト・ファンド (保守型)(標準型)(積極型) 運用状況

Market Trends and Investment Outlook

パフォーマンス推移・市況動向等

パフォーマンス推移 設定来基準価額（分配金再投資）の推移



(期間)2021年5月25日(設定日)～2024年3月29日、日次

【騰落率】	過去1ヶ月	過去3ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	設定来
積極型	+3.3%	+12.2%	+16.9%	+32.3%	+47.2%
標準型	+2.6%	+8.2%	+12.0%	+22.8%	+30.6%
保守型	+1.6%	+4.5%	+7.0%	+12.1%	+14.3%

・基準価額（分配金再投資）は、1万円当たりであり運用管理費用（信託報酬）控除後の値です。
 ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
 ・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
 ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
 ・分配金実績がある場合は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。
 ・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

市況動向 (2024年3月)

- ◇**内外株式** 先進国の株式市況は、一部企業の好調な決算や主要先進国の金利が概ね低下したことなどから上昇しました。国内の株式市況も、円安米ドル高の進行などから上昇しました。新興国の株式市況も上昇しました。
- ◇**内外債券** 先進国の債券市況は、主要中央銀行による利下げ観測などを背景に上昇しました。国内の債券市況は、下落しました。新興国の債券市況は上昇しました。
- ◇**オルタナティブ** 先進国の不動産投資信託(リート)市況は、主要先進国の金利が概ね低下したことなどから上昇しました。金価格は、中東情勢の緊張などを背景に安全資産としての需要が高まったことなどから上昇しました。原油は、主要産油国による減産延長の観測や中東情勢の緊張などを背景に、需給の引き締まりが意識されたことなどから上昇しました。
- ◇**為替** 為替市場では、米ドルは、日米の中央銀行による金融政策の公表を受け、日米の金利差が開いた状況が続くとの見方が強まったことなどから対円で上昇しました。ユーロも対円で上昇しました。

今後の運用方針、見通し (2024年3月29日時点)

今後も短期的な波乱要因に注意を払いつつも、中長期では世界経済の拡大に寄り添う形でのリスク資産の持ち直しを見込みます。引き続き、グローバル市場についての長期および短期見通しに関する分析をふまえ、日本を含む世界各国の様々な資産に分散投資を行っていきます。分散投資の枠組みの維持と適切な基本資産配分比率の管理を通じて、目標リスク水準に沿った運用を行い、中長期に亘ってファンド価値の増大を目指します。

※上記は日本時間におけるコメントです。そのため月末にかけての海外市場の動向が反映されていない場合があります。

・各コメントは三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社の資料に基づき作成しています。・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。・評価時点が異なる事によって、上記コメントとファンドの騰落率等が異なる場合があります。・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

Performance Snapshot

騰落率要因

資産構成と騰落率要因（2024年3月）

組入比率：2024年3月29日時点、騰落率要因：2024年2月29日～2024年3月29日

		保守型		標準型		積極型	
		組入比率	騰落率要因	組入比率	騰落率要因	組入比率	騰落率要因
株式	国内株式	5.2%	0.3%	8.9%	0.4%	17.4%	0.7%
	米国株式	6.7%	0.3%	14.1%	0.6%	34.0%	1.4%
	欧州株式	1.7%	0.1%	3.8%	0.2%	10.9%	0.4%
	新興国株式	1.9%	0.1%	4.8%	0.1%	13.7%	0.4%
債券	国内債券	34.2%	-0.0%	3.4%	-0.0%	0.0%	0.0%
	米国国債	7.9%	0.1%	5.0%	0.1%	0.0%	0.0%
	米国投資適格債券	12.4%	0.2%	21.0%	0.4%	8.5%	0.2%
	米国ハイイールド債券	6.4%	0.1%	11.1%	0.1%	5.2%	-0.0%
	欧州国債	3.2%	0.0%	2.5%	0.0%	0.5%	-0.0%
	新興国債券	11.9%	0.4%	15.1%	0.4%	1.2%	0.0%
リート	国内リート	4.4%	0.3%	3.4%	0.2%	1.6%	0.1%
	先進国リート	1.9%	0.1%	2.4%	0.1%	3.5%	0.1%
その他	現金等	2.3%	-	4.5%	-	3.4%	-
合計		100.0%	1.6%	100.0%	2.6%	100.0%	3.3%

2月発刊のGMAPレポートなどに基づき、短期市場見通しに基づくアロケーションを3月に見直しました。米国ハイイールド債券などの資産配分比率を調整しました。

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。・上記組入比率は、各資産別に投資している投資信託証券の評価額をもとに計算したものです。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・上記騰落率要因は、各資産別に投資している投資信託証券がファンドの騰落率（1ヵ月）に与えた影響等の目安をお伝えするために簡便的に計算した概算値であり、信託報酬等の費用を考慮しておりません。また、その正確性、完全性を保証するものではありません。・各騰落率要因は、各投資信託証券の、課税前分配金を考慮した月間騰落率と資産配分比率に基づく概算値です。各資産の騰落率要因の合計とファンドの騰落率（1ヵ月）は必ずしも一致するものではありません。・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。コメントについて、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社の資料に基づき作成しております。上記は、過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

【本資料に関してご留意いただきたい事項】の内容を必ずご覧ください。

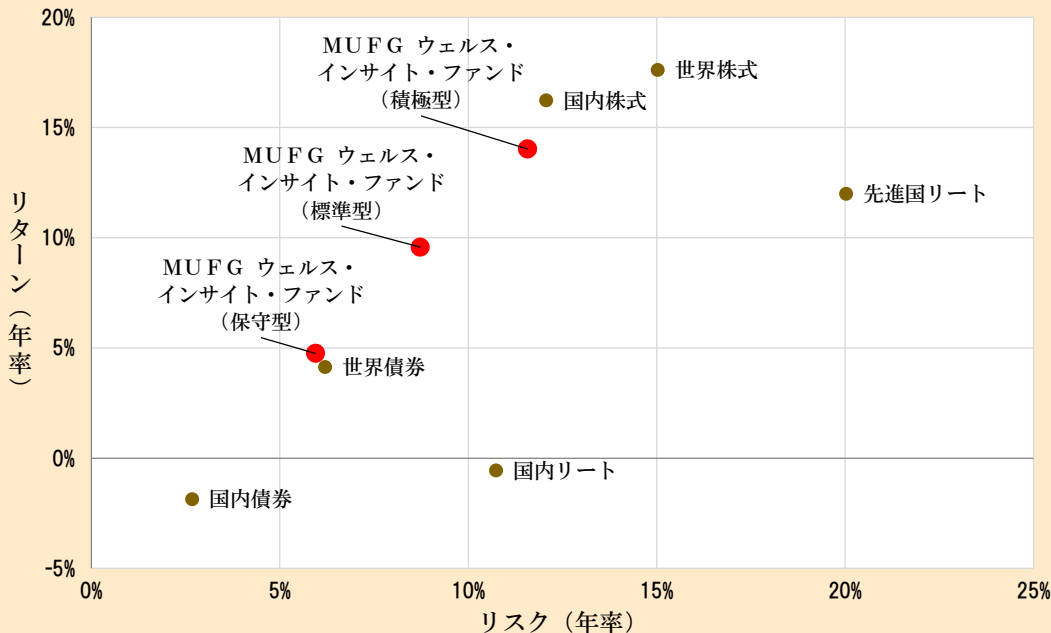
Risk/Return Profile

リスク/リターン分布

MUFG ウェルス・インサイト・ファンド及び資産別リスク/リターン分布図

短期（ファンド設定来）

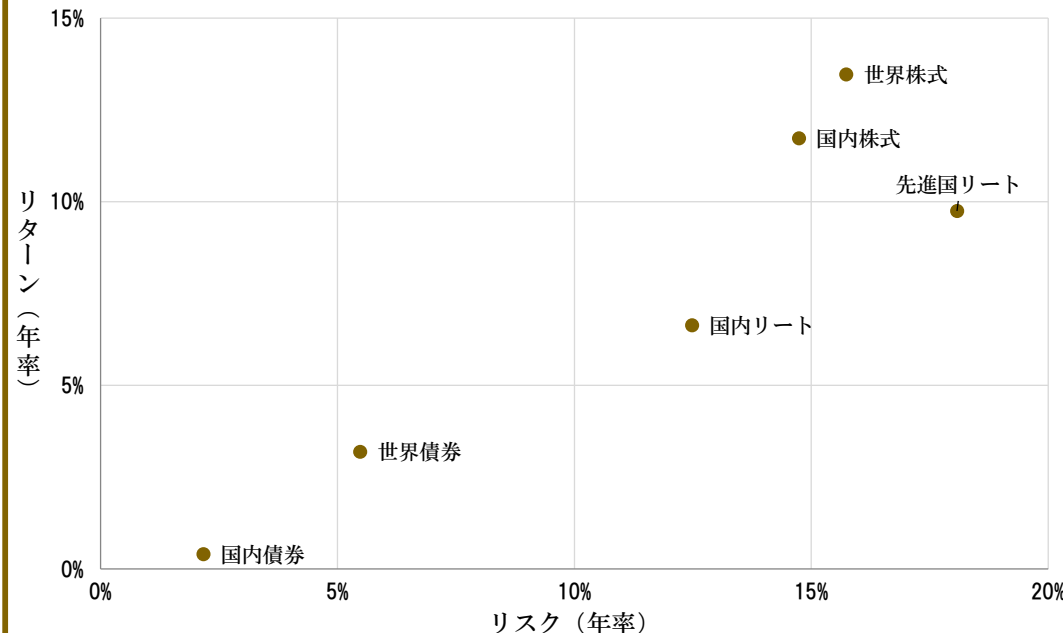
ファンド設定月末(2021年5月31日)~2024年3月29日の日次データに基づく各月の騰落率から算出



	MUFG ウェルス・インサイト・ファンド			国内債券	世界債券	国内リート	先進国リート	国内株式	世界株式
	保守型	標準型	積極型						
①リターン	5%	10%	14%	-2%	4%	-1%	12%	16%	18%
②リスク	6%	9%	12%	3%	6%	11%	20%	12%	15%
①/②	0.80	1.10	1.21	-0.69	0.67	-0.05	0.60	1.35	1.17

【ご参考】長期（過去10年間）

2014年3月31日~2024年3月29日の日次データに基づく各月の騰落率から算出



	国内債券	世界債券	国内リート	先進国リート	国内株式	世界株式
①リターン	0%	3%	7%	10%	12%	13%
②リスク	2%	5%	12%	18%	15%	16%
①/②	0.19	0.58	0.53	0.54	0.80	0.86

(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

・各資産は以下の指数を使用しております。国内債券 (NOMURA-BPI総合)、世界債券 (FTSE世界国債インデックス (円換算ベース))、国内リート (東証REIT指数)、先進国リート (S&P先進国REIT指数 (除く日本、円換算ベース))、国内株式 (TOPIX)、世界株式 (MSCIオールカントリー・ワールドインデックス (円換算ベース))。株式・リートにおいていずれも配当込みの指数を使用。各指数はファンドのベンチマークではございません。・リターンは月次騰落率の平均を年率換算 (月次騰落率の平均×12) したものであり、リスクは月次騰落率の標準偏差を年率換算したものです。データ数が少ない場合は十分なデータ数がある場合に比べて統計として有意性が下がります。・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入。上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。なお、税金・手数料等を考慮しておりません。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

【本資料に関してご留意いただきたい事項】の内容を必ずご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

保守型／標準型／積極型

日本を含む世界各国(新興国を含みます。以下同じ。)の株式、債券、不動産投資信託証券(リート)、商品(コモディティ)およびオルタナティブ資産を実質的な主要投資対象とし、利子収益および配当収益の確保ならびに値上がり益の獲得をめざします。

マネープール

わが国の公社債等を実質的な主要投資対象とし、主として安定した利子収益の確保をめざします。

ファンドの特色

当ファンドは、目標リスク水準が異なる3つのファンドとマネープールの計4ファンドから構成されています。

保守型／標準型／積極型の特色

1 日本を含む世界各国の様々な資産に分散投資を行います。

- ◆ 投資信託証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の株式、債券、不動産投資信託証券(リート)に投資を行います。また商品(コモディティ)、オルタナティブ資産に投資することがあります。
 - ・ 投資信託証券への投資を通じて、上記の各投資対象資産に関連するデリバティブを利用する場合があります。また、上記の投資対象資産のすべてには投資を行わない場合があります。
- ◆ 投資対象となる投資信託証券(以下、「指定投資信託証券」ということがあります。)の選定は、投資信託証券の定量・定性の評価等を勘案して行います。なお、指定投資信託証券は適宜見直しを行います。この際、指定投資信託証券として選定されていた投資信託証券を除外したり、新たに投資信託証券(ファンド設定以降に設定された投資信託証券を含みます。)を指定投資信託証券として選定する場合があります。
- ◆ 投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

【本資料に関してご留意いただきたい事項】の内容を必ずご覧ください。

2

保守型、標準型、積極型の3つのファンドから選択できます。

- ◆ お客様のリスク許容度に応じて、目標リスク水準の異なる3つのファンドから選択できます。

<各ファンドの目標リスク水準>

保守型 (安定性を重視) : 年率標準偏差 6.0%程度

標準型 (安定性と成長性を重視) : 年率標準偏差 10.0%程度

積極型 (成長性を重視) : 年率標準偏差 14.0%程度

- ・ 目標リスク水準は、各ファンドの価格変動リスクの目安を表示したものです。各ファンドのポートフォリオを構築する際の目標値として使用するものであり、リターンや利回りを示したものではありません。なお、各ファンドの実際のリスク水準が目標リスク水準を上回る場合や下回る場合があり、運用成果を保証するものではありません。
- ・ 一般に、リスクが大きい(小さい)ファンドほど期待されるリターンが大きく(小さく)なる傾向があります。(必ずしもこのような関係にならない場合があります。)

3

グローバル市場についての長期および短期見通しに関する分析をふまえ、分散投資を行います。

- ◆ 各ファンドの運用にあたっては、三菱UFJモルガン・スタンレー証券 投資顧問部(以下、投資顧問部ということがあります。)から投資助言を受けます。
- ◆ 投資顧問部は、同社のウェルスマネジメントリサーチ部が作成したレポートを参照したうえで、経済・金融市場環境分析を行い、グローバル市場についての投資顧問部の長期市場見通しに基づく資産配分比率の決定、短期市場見通しに基づくその調整等について投資助言を行います。
※指定投資信託証券の選定、見直し等についても、投資助言を行います。
- ◆ 各ファンドの目標リスク水準において最も期待リターンが高くなると想定される各資産の組み合わせを投資顧問部の長期市場見通しに基づく資産配分比率として決定します。この比率に基づき、指定投資信託証券の中から選定した投資信託証券に投資を行います。
※グローバル市場の短期見通しを考慮し資産配分比率を調整する際、目標リスク水準どおりとならないことがあります。
- ◆ 投資顧問部の長期市場見通しに基づく資産配分比率の決定は、原則として年1回行います。ただし、市場動向等によっては臨時に資産配分比率の変更を行うことがあります。また、決定した資産配分比率について投資顧問部の短期市場見通しを考慮し、調整を行うことがあります。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

ファンドの特色

4 原則として、為替ヘッジを行いません。

◆ 原則として為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。

5 年1回の決算時(5月20日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。

◆ 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

マネープールの特色

1 わが国の短期公社債等を中心に投資し、主として安定した利子等収益の確保を図ります。

※実際の運用はマネー・マザーファンド受益証券を通じて行います。

2 年1回の決算時(5月20日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。

◆ 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

【本資料に関してご留意いただきたい事項】の内容を必ずご覧ください。

投資リスク

共通 (保守型／標準型／積極型／マネープール)

■ 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

保守型／標準型／積極型

価格変動リスク

主要投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、実質的に組み入れる有価証券等の価格変動の影響を受けます。

- ・株式の価格は、株式市場全体の動向のほか、発行企業の業績や業績に対する市場の見通しなどの影響を受けて変動します。組入株式の価格の下落は、基準価額の下落要因となります。
- ・債券の価格は、市場金利の変動の影響を受けて変動します。一般に市場金利が上がると、債券の価格は下落し、組入債券の価格の下落は基準価額の下落要因となります。市場金利の変動による債券価格の変動は、一般にその債券の残存期間が長いほど大きくなる傾向があります。
- ・リートの価格は、リート市場全体の動向のほか、保有不動産等の価値やそこから得られる収益の増減等により変動します。また、金利上昇時にはリートの配当(分配金)利回りの相対的な魅力が弱まるため、リートの価格が下落することがあります。組入リートの価格下落は、基準価額の下落要因となります。
- ・コモディティの価格は、景気、為替、金利の変化等の一般的な要因のほか、生産・需給関係や生産国の天候、政治情勢変化等の特殊要因で動くことがあり、その変動の合理的な分析や予測ができない場合があります。コモディティ価格の下落によりファンドが投資する有価証券等の価格が値下がりした場合には、基準価額の下落要因となります。
- ・一般に、オルタナティブ資産(非伝統的資産および非伝統的な運用手法における投資対象資産)は、公開市場等で取引される有価証券等と比較して情報の取得が困難な可能性や、当該資産の取引を行う際の価格が不透明なものとなる可能性があり、結果としてファンドが投資する当該資産の価格が大きく下落することがあります。
- ・デリバティブ取引等は金利変動、株式、債券、リートおよびコモディティの価格変動、為替変動等を受けて価格が変動するため、ファンドはその影響を受けます。
- ・株価指数先物、債券先物、リート指数先物および商品先物等は、その原資産である株式、債券、リートおよび商品(コモディティ)の価格変動等の影響を受けて価格が変動するため、ファンドはその影響を受けます。なお、需給や当該原資産に対する期待等により、理論上期待される水準とは大きく異なる価格となる場合があります。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

為替変動リスク

組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を受けます。

信用リスク

有価証券等の発行企業の経営、財務状況が悪化したり、市場においてその懸念が高まった場合には、有価証券等の価格が下落(債券の場合は利回りが上昇)すること、配当金が減額あるいは支払いが停止されること、または利払いや償還金の支払いが滞ること、倒産等によりその価値がなくなること等があります。また、投資対象とする投資信託証券ではデリバティブ取引等を利用する場合がありますが、その取引相手の倒産等により、取引が不履行になるリスク、取引を決済する場合に反対売買ができなくなるリスク、理論価格よりも大幅に不利な条件でしか反対売買ができなくなるリスクなどがあり、その結果として多額の損失が発生し、基準価額が大幅に下落する場合があります。

流動性リスク

有価証券等を売買しようとする際に、その有価証券等の取引量が十分でない場合や規制等により取引が制限されている場合には、売買が成立しなかったり、十分な数量の売買が出来なかったり、ファンドの売買自体によって市場価格が動き、結果として不利な価格での取引となる場合があります。オルタナティブ資産に投資する場合、一般に公開市場等で取引される有価証券等と比較して市場・取引規模が小さいため、流動性リスクが高い傾向にあります。

カントリー・リスク

ファンドは、新興国の有価証券等に実質的な投資を行うことがあります。新興国への投資は、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響などを受けることにより、先進国への投資を行う場合に比べて、価格変動・為替変動・信用・流動性のリスクが大きくなる可能性があります。

ファンドは、格付けの低い投資適格未満の普通社債、劣後債および優先証券等に投資する場合があります。格付けの高い公社債への投資を行う場合に比べ、価格変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

投資リスク

- その他の留意点 ●投資対象ファンドのうちマザーファンドについては、当該マザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。
- リスクの管理体制 <投資対象ファンド(国内投資信託を除く)の信用リスク管理方法>
投資対象ファンドの管理会社および投資運用会社は、投資対象ファンドにおいて、欧州委員会が制定した指令(UCITS指令)に定めるリスク管理方法に基づき信用リスクを管理します。

マネープール

価格変動リスク

債券の価格は、市場金利の変動の影響を受けて変動します。一般に市場金利が上がると、債券の価格は下落し、組入債券の価格の下落は基準価額の下落要因となります。市場金利の変動による債券価格の変動は、一般にその債券の残存期間が長いほど大きくなる傾向があります。

懸念が高まった場合には、債券の価格が下落(利回りは上昇)すること、利払いや償還金の支払いが滞ること、倒産等によりその価値がなくなるなどがあります。

流動性リスク

債券を売買しようとする際に、その債券の取引量が十分でない場合や規制等により取引が制限されている場合には、売買が成立しなかったり、十分な数量の売買が出来なかったり、ファンドの売買自体によって市場価格が動き、結果として不利な価格での取引となる場合があります。

信用リスク

債券の発行体等の経営、財務状況が悪化したり、市場においてその

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

- その他の留意点 ●ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。
- 投資環境によっては、マイナス利回りの公社債や金融商品等での運用となることがあり、この場合、基準価額の下落要因となります。

共通(保守型/標準型/積極型/マネープール)

- その他の留意点 ●ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
 - 有価証券の貸付等においては、取引先の倒産等による決済不履行リスクを伴い、ファンドが損失を被る可能性があります。
 - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
 - 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- リスクの管理体制 委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行い、ファンド管理委員会およびリスク管理委員会において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。
 - また、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策を策定し流動性リスクの評価と管理プロセスの検証などを行います。リスク管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

お申込みメモ

購入時

購入単位

販売会社が定める単位
販売会社にご確認ください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額
※基準価額は1万口当たりで表示されます。

換金時

換金単位

販売会社が定める単位
販売会社にご確認ください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社においてお支払いします。

申込に ilişkin

申込不可日

■保守型／標準型／積極型

次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。

- ・ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、ロンドン証券取引所、ロンドンの銀行、フランクフルト証券取引所、フランクフルトの銀行、香港取引所、香港の銀行の休業日

■マネープール

保守型／標準型／積極型の申込不可日に関わらず換金が可能です。

申込締切時間

原則として、午後3時までには販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。

換金制限

各ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。

購入・換金申込受付の中止及び取消し

■保守型／標準型／積極型

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情(投資対象証券の取得・換金の制限、投資対象国・地域における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等)があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。

■マネープール

金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。

■共通(保守型／標準型／積極型／マネープール)

信託金の限度額に達しない場合でも、各ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入のお申込みの受付を中止することがあります。

信託期間

無期限(2021年5月25日設定)

繰上償還

以下の場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。

■共通(保守型／標準型／積極型／マネープール)

- ・各ファンドについて、受益権の口数が10億口を下回るようになった場合
- ・MUFG ウェルス・インサイト・ファンドを構成する各ファンドの受益権の総口数の合計が30億口を下回るようになった場合
- ・各ファンドを償還させることが受益者のため有利であると認めるとき
- ・やむを得ない事情が発生したとき

■マネープール

- ・スイッチング対象となるファンドがすべて償還することとなった場合

決算日

毎年5月20日(休業日の場合は翌営業日)

収益分配

年1回の決算時に分配金額を決定します。(分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。)

販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。

その他

課税関係

課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。

「保守型／標準型／積極型」は、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象です。販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。

「マネープール」はNISAの対象ではありません。

税法が改正された場合等には、変更となることがあります。

スイッチング

MUFG ウェルス・インサイト・ファンドを構成する各ファンド間でのスイッチングが可能です。ただし、マネープールの購入は、保守型、標準型および積極型からのスイッチングによる購入の場合に限ります。販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。手続・手数料等は、販売会社にご確認ください。なお、換金時の譲渡益に対して課税されます。

ファンドの費用

◎お客さまが直接的に負担する費用

購入時	購入時 手数料	購入価額に対して、 上限1.10%(税抜 1.00%) 販売会社が定めます。 くわしくは、販売会社にご確認ください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)	<p>【保守型／標準型／積極型】 運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。 ■各ファンド：日々の純資産総額に対して、年率1.2265%(税抜 年率1.1150%)をかけた額 ※上場投資信託(リート)は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託の費用は表示していません。(有価証券の貸付の指図を行った場合) 有価証券の貸付の指図を行った場合には品賃料がファンドの収益として計上されます。 その収益の一部を委託会社と受託会社が受け取ります。投資対象とする投資信託証券がマザーファンド(TOPIXマザーファンドおよび東証REIT指数マザーファンドを除きます。)で、当該マザーファンドにおいて有価証券の貸付の指図を行った場合、マザーファンドの品賃料のうちファンドに属するとみなした額の49.5%(税抜 45.0%)以内の額が上記の運用管理費用(信託報酬)に追加されます。 ■投資対象とする投資信託証券：各ファンドの投資対象ファンドの純資産総額に対して、年率0.04%~0.07%程度(運用および管理等にかかる費用) ※各ファンドが投資対象とする投資信託等(マザーファンドを通じて投資する投資信託等を含む)の信託報酬率を資産配分比率で加重平均した率です。(2023年11月30日現在) ■実質的な負担：各ファンドの純資産総額に対して、年率1.2665%~1.2965%程度(税込) ※投資対象とする投資信託証券の信託(管理)報酬率を合わせた実質的な信託報酬率(概算値)を算出したものです(2023年11月30日現在)。各投資信託証券への投資比率が変動する可能性や投資信託証券の変更の可能性があることから、実質的な料率は変動します。したがって事前に固定の料率、上限額等を表示することはできません。 【マネープール】 日々の純資産総額に対して、年率0.605%(税抜 年率0.550%)以内をかけた額</p>	保有期間中	その他の費用・ 手数料	<p>以下の費用・手数料についても各ファンドが負担します。監査法人に支払われる各ファンドの監査費用/有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料/投資対象とする投資信託証券における諸費用および税金等(マネープールを除く各ファンド)/投資対象とする投資信託証券の換金に伴う信託財産留保額(マネープールを除く各ファンド)/有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用/その他信託事務の処理にかかる諸費用 等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。</p> <p>※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、各ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時に各ファンドから支払われます。 ※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、各ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。</p>
-------	------------------	--	-------	----------------	--

■ 本資料で使用している指数について

- 日経平均：日経平均株価（日経225）とは、東京証券取引所プライム市場上場銘柄のうち代表的な225銘柄を対象として日本経済新聞社により算出、公表される株価指数です。
- TOPIX：東証株価指数（TOPIX）とは、日本の株式市場を広範に網羅する時価総額加重方式の株価指数です。
- S & P 500：S & Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが公表している株価指数で、米国の代表的な株価指数の1つです。市場規模、流動性、業種等を勘案して選ばれたニューヨーク証券取引所等に上場および登録されている500銘柄を時価総額で加重平均し指数化したものです。
- NASDAQ総合：米国のNASDAQ株式市場で取引されているすべての普通株で構成される株価指数であり、時価総額加重平均により計算されています。
- ストックス・ヨーロッパ600：STOXXリミテッド（以下「STOXX社」）が公表・算出するヨーロッパの株式市場の値動きを表す株価指数です。
- MSCI World：MSCIワールド インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の先進国で構成されています。
- MSCI EM：MSCI エマージング・マーケット インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。
- MSCI ACWI：MSCI オールカントリー・ワールド インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の先進国・新興国の株式で構成されています。
- NOMURA-BPI総合：野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。
- FTSE米国国債インデックス：FTSE Fixed Income LLCにより運営され、米国債の総合収益率を指数化した債券インデックスです。
- FTSE世界国債インデックス：FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。
- JPモルガンEMBI+：J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している流動性の高い米ドル建ての新興国国債のパフォーマンスを表す指数です。
- 東証REIT：東京証券取引所に上場している不動産投資信託証券全銘柄を対象として算出した指数です。
- S & P 先進国REIT（除く日本）：S & Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが公表している指数で、日本を除く先進国の不動産投資信託（REIT）および同様の制度に基づく銘柄を対象に浮動株修正時価総額に基づいて算出されています。

本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。

各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページ（<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>）をあわせてご確認ください。

■ 本資料に関してご留意いただきたい事項

- 本資料は、三菱UFJアセットマネジメントが作成したファンド情報提供資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

■販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
FFG証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第5号	○			○
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2938号	○			
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第37号	○			
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第128号	○			
南都まほろば証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第25号	○			
株式会社三菱UFJ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
株式会社三菱UFJ銀行(委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○			

・商号欄に*の表示がある場合は取次販売会社です。・商号欄に(※)の表示がある場合は新規申込のお取扱いを中止しております。

■設定・運用は

三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会